

臨床美術学会第9回大会
2017

開催要項

◇主題

臨床美術の新たな展開

－フィールドとの接合と実践知の融合－

臨床美術学会第9回大会

ご案内

臨床美術学会第9回大会 大会長 岩田 力
臨床美術学会 学会長 木戸 修
大会企画委員一同

昨年、臨床美術の節目となる2016年度大会では「臨床美術の第2章～未来へのプロローグ～」と題して、これまでの臨床美術が蓄積してきた歩みを振り返りつつ、今後の進むべき方向性について示唆された内容となりました。この潮流をくみながら、本大会ではこれからの現代社会における本学会の目的の再認識と、具体的な推進のビジョンに焦点を当て、臨床美術の様々な現状を踏まえつつ、より密度の濃いディスカッションの場となるよう企画いたしました。

これまで、臨床美術は、認知症に対する改善を目的としたリハビリを端緒として、介護予防、復職支援、発達が気になる子どもへの支援等々多岐にわたり、様々な課題を抱える現代社会のニーズを受けて展開されてきました。また、養成講座でも多くの臨床美術士が輩出され、様々なキャリアを持つ方々が多方面の現場で活躍されています。これらのことから、大会テーマを大会全体の主幹テーマとして「臨床美術の新たな展開 -フィールドとの接合と実践知の融合-」とし、昨今、様々な改革で注目されている幼児教育・保育、また教育現場について具体的にフォーカシングしながら、臨床美術全体の課題へとマクロ的視座へ展開を図っていききたいと思います。

第1部（午前）では、基調講演として、那須信樹先生（東京家政大学）をお迎えし、教育学の立場から現代における社会資源の中で、臨床美術が何を目的として、どのように現場にコミットし、効果を引き出していくべきかご高説いただき、臨床美術が社会と接合するために多職種協働によって学び合う「実践知の融合」を考える場としていきます。

また、シンポジウムでは、臨床美術士が日常的に保育現場へ関わり子どもの豊かな感性を育成している実践プロジェクトを例として取り上げ、臨床美術と現場との協働により生み出される実践知から、その効果、課題、臨床美術の今後の方向性について議論を深めていききたいと思います。

第2部（午後）では、分科会方式を導入することにいたしました。各テーマに沿った話題提供のもと、アクティブラーニング型の情報共有分科会を3会場に分け、参加学会員の相互による、主体的、能動的、具体的な討議を行い、それぞれの実践知を共有していききたいと思います。

また、一般研究発表をポスターセッション形式とし、より多くの学会員の研究発表による情報共有、ディスカッション、学びの研鑽の場としていきます。

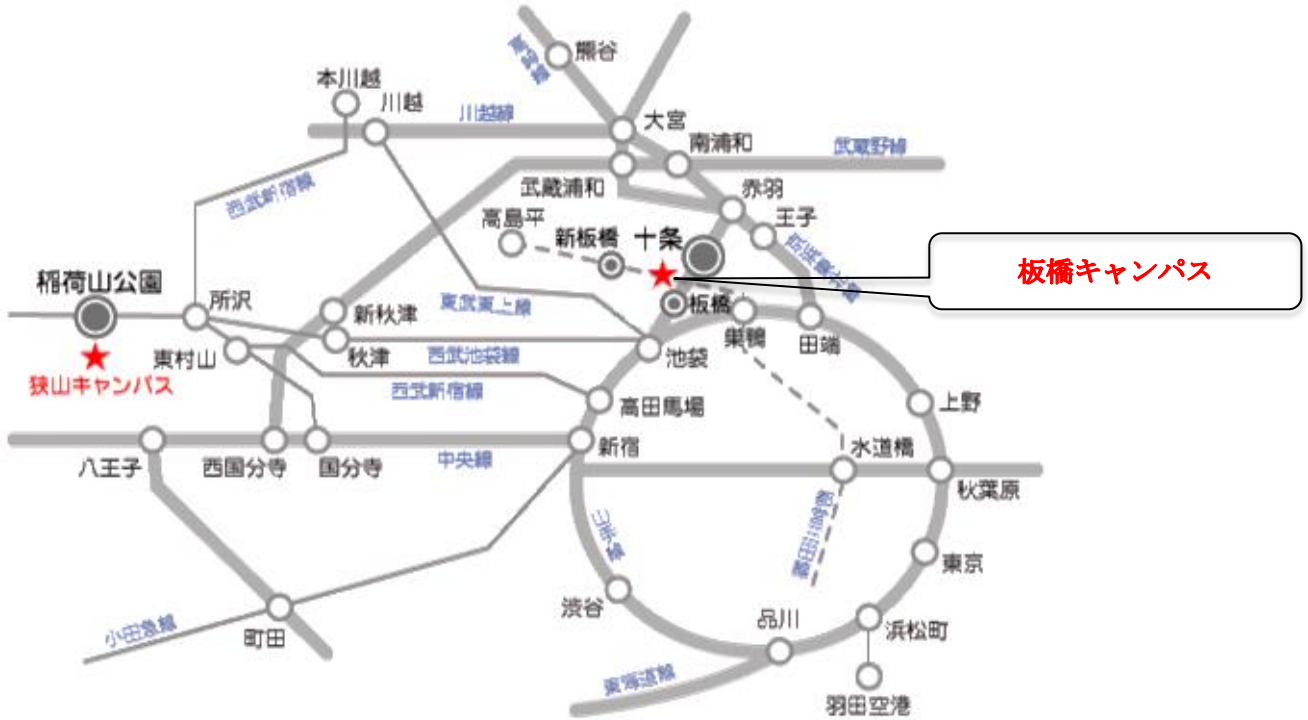
本大会では、臨床美術の今後の可能性と共に、多様な実践現場における様々な課題を学会員と共有し、臨床美術の質の担保と向上へ向けた示唆を得ることができる内容となるよう、多くの方にご参加いただければ幸いです。

会場

東京家政大学板橋キャンパス

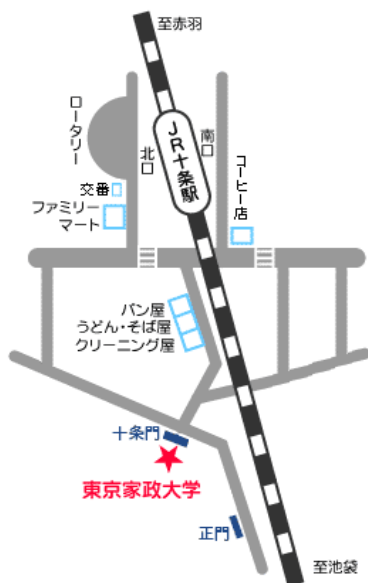
所在地：〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

TEL： 03-(3961)-5226



●JR 埼京線「十条駅」からの地図

JR 埼京線十条駅下車徒歩 5分

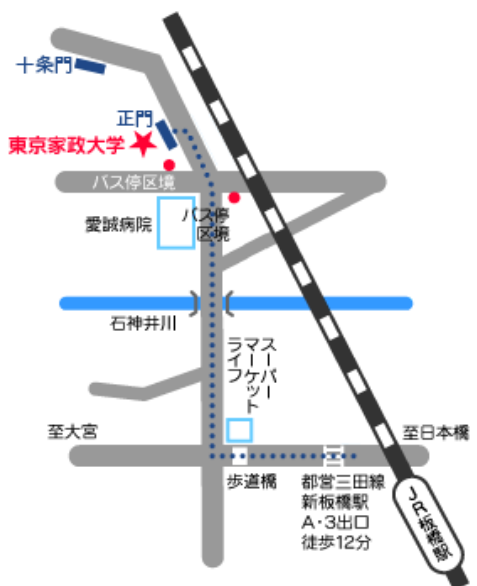


●JR 埼京線「板橋駅」

都営三田線「新板橋駅」からの地図

JR 埼京線板橋駅下車徒歩 17分

都営三田線新板橋駅下車徒歩 12分



日程表

I. 日 程 : 2017年11月12日(日) 9:30~17:40 (懇親会 18:00~20:00)

II. 会 場 : 東京家政大学板橋キャンパス

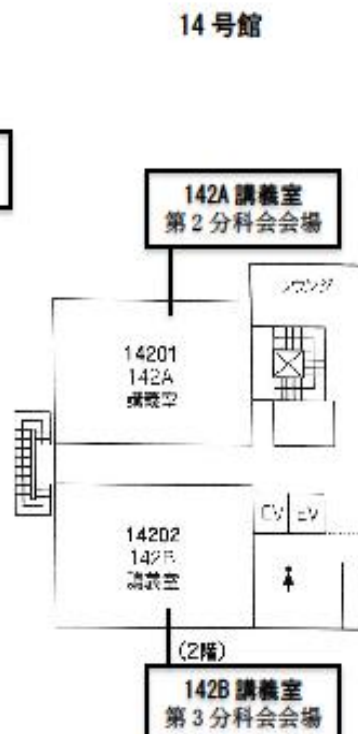
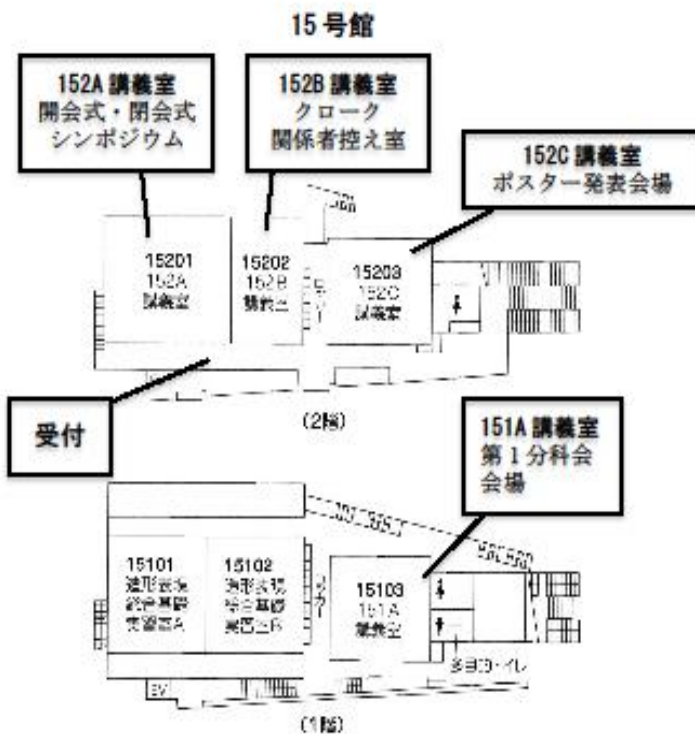
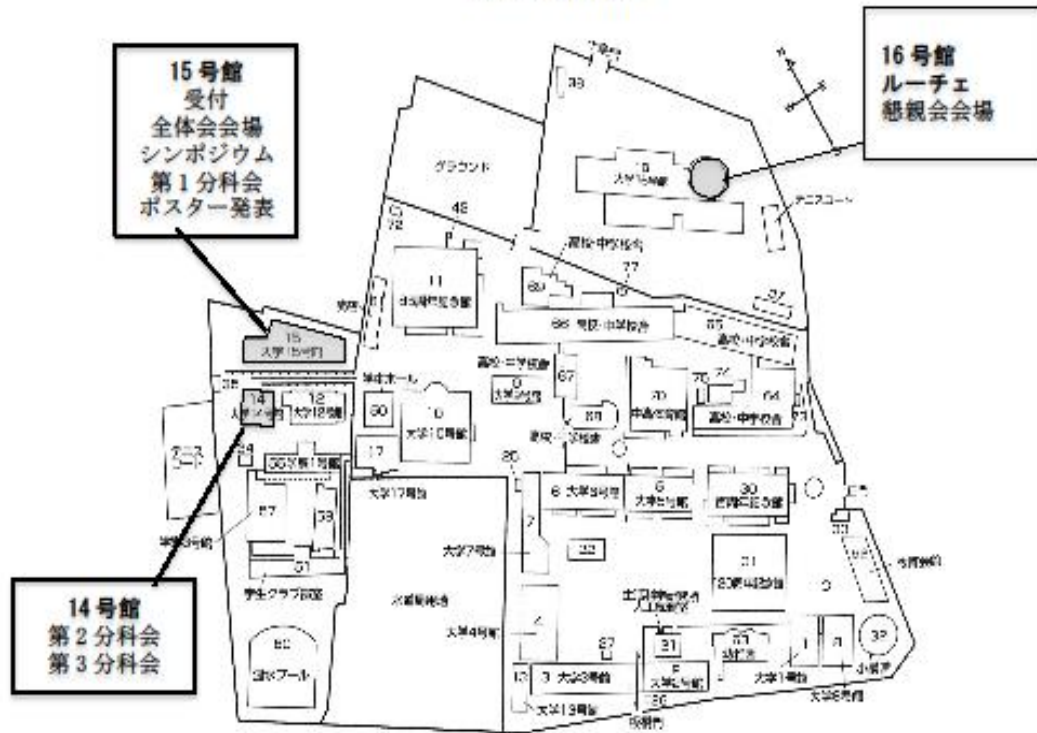
III. 大会長 : 岩田 力 氏 (東京家政大学子ども学部学部長)

IV. テーマ : 「臨床美術の新たな展開
-フィールドとの接合と実践知の融合-

V. プログラム

| 時間 | 項目 | 内容 | 会場 |
|---------------------|-------------------------|---|----------------|
| 9:00 | 受付 | ポスター発表受付展示 | 15号館 2F ロビー |
| 9:30 ~ 9:40 | 開会式 | 開会の言葉 大会長挨拶 岩田 力氏 (東京家政大学 子ども学部学部長) 学会長挨拶 木戸 修氏 (東京藝術大学 教授) | 15号館 152A |
| 9:40 ~ 10:40 | 基調講演 | 那須 信樹氏 (東京家政大学子ども学部 教授) 講演テーマ 『臨床美術は「主体的・対話的で深い学び」をもたらすか？ ~乳幼児のための新しい教育及び保育パラダイムの創造に向けて~』 | |
| 10:50 ~ 12:50 | シンポジウム | テーマ 「子どもの現場における臨床美術の新たな展開」 座長 : 和田 明人氏 (東北福祉大学 教授) シンポジスト 河合 規仁氏 (東北文教大学 教授) シンポジスト 寺澤 三奈子氏 (社会福祉法人清香会 臨床美術士) シンポジスト 青木 一則氏 (東北福祉大学) | |
| 12:50 ~ 13:50 | 昼休憩 | ポスター展示 (15号館 152C) | |
| 13:50 ~ 15:50 | 分科会 | 分科会1「多様化するフィールドへ向けたアートプログラムの構造化」 座長 河合 規仁氏 (東北文教大学 教授) 話題提供者 藤木 晃宏氏 (芸術造形研究所) 北澤 晃氏 (富山福祉短期大学 教授) | 15号館 151A |
| | | 分科会2「様々な現場との協働を紡ぐためのコンピテンシー」 座長 保坂 遊氏 (東京家政大学 准教授) 話題提供者 丸本 真代氏 (M's palette) 佐藤 敏美氏 (デイケアうさぎ) | 14号館 142A |
| | | 分科会3「現場に求められる臨床美術の効果と評価」 座長 青木 一則氏 (東北福祉大学 准教授) 話題提供者 高橋 文子氏 (芸術造形研究所) 音山 若穂氏 (群馬大学 教授) | 14号館 142B |
| 16:00 ~ 17:00 | 研究発表 ポスターセッ ション形式 | 座長 大城 泰造氏 (東北福祉大学 准教授) | 15号館 152C |
| 17:00 ~ 17:40 | 閉会式 | 分科会報告 総括 閉会の言葉 | 15号館 152A |
| 18:00 ~ 20:00 | 懇親会 | 臨床美術学会懇親会 (情報交換会) | 16号館 ルーチェ |

会場案内図



基調講演

臨床美術は「主体的・対話的で深い学び」をもたらすか？

～乳幼児のための新しい教育及び保育パラダイムの創造に向けて～

講師 東京家政大学子ども学部
教授 那須 信樹 氏



平成27年4月より施行された「子ども・子育て支援新制度」のもと、我が国のすべての乳幼児のための質の高い教育及び保育、保護者の子育て支援、そしてそれを実質化していくための環境（人的・物的・社会的）の創造（整備）に向けた様々な取組みが展開されている。本年3月には、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園のより良い教育・保育を目指す基準として定められている『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』が同時に改訂（改定）された。この動きと連動しながら、小学校以上の学校においてもそれぞれの『学習指導要領』が順次、改訂されている。

とりわけ、今回の改訂（改定）の特徴は、乳幼児期からの十分な養護、「遊びを通しての総合的な指導」の必要性が再確認された点にある。また、新たに「幼児教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明示された点。さらに「幼児教育において育みたい資質・能力」の中核としての「三つの柱」（①「知識・技能の基礎」、②「思考力・判断力・表現力等の基礎」、③「学びに向かう力・人間性等」）を軸に、乳幼児期の育ちや学びを小学校以上の学校教育との接続を図りながら、保育者・教師の使命として、子ども一人一人の「主体的・対話的で深い学び」を可能にしていくことへの言及がなされた点にある。

そしてその背景には、子どもたちのその生涯にわたる人格形成や社会生活を左右するだけの影響力を持つとされる「社会情動的スキル」や「非認知的能力」の獲得の上で、乳幼児期を生きる子どもを取り巻く大人の関わりや環境が極めて重要な意味を持つことを明らかにした研究成果が存在する。

さて、本講演ではこの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一つとして示されている「豊かな感性と表現」の“もと”となる内容、領域「表現」の中身に着目する。その上で、臨床美術（あるいは臨床美術士）は、①子ども一人一人の生きる力の基礎を育む「主体的・対話的で深い学び」の姿をもたらすことが可能な存在なのか。また、②乳幼児のための新しい教育及び保育パラダイムの創造に不可欠な「多職種協働」の当事者になりうるか。加えて、③そもそも、現代社会においてなぜ「臨床美術」なのか。この三点を踏まえつつ、保育現場における保育士と臨床美術士による協働的な取組みを中心に紹介しながら、本講演に続くシンポジウム、ならびに分科会の議論活性化に資する論点の提示を試みたい。

<講師略歴>

東京家政大学子ども学部 教授
那須 信樹 氏

【職歴】

- 1989年4月 中村学園大学附属あさひ幼稚園教諭（1992年3月まで）
1992年4月 中村学園大学附属あさひ幼稚園主任教諭（1997年3月まで）
1997年4月 中村学園大学短期大学部専任講師を経て准教授、教授を歴任（2014年3月まで）
2010年4月 中村学園大学附属あさひ幼稚園園長（兼務）（2014年3月まで）
2014年4月 東京家政大学子ども学部子ども支援学科教授（現職）

【主な社会的活動】

- 2016年9月 （厚生労働省）保育士のキャリアパスに係る研修体系等の構築に関する調査研究協力者会議委員（2017年3月まで）
2016年12月 （厚生労働省）保育士養成課程等検討会ワーキンググループ委員（現在に至る）
ほか

【専門分野】

幼児教育学・保育学

【最近の研究テーマ】

- ・保育教諭の自律性と協働性を高める園内研修スキームの開発
（*平成27年度～29年度日本学術振興会科学研究費助成事業）
- ・多職種協働による芸術保育を主軸とした日常保育実践モデルの開発
（*平成27年度～29年度日本学術振興会科学研究費助成事業）

【主著】

- （共著）「保育実習指導のミニマムスタンダード2017年版」全国保育士養成協議会、2017
（著者代表）「手がるに園内研修メイキング ～みんなでつくる保育の力～」わかば社、2016
（編著）「教育課程総論・保育課程総論」中央法規、2016

シンポジウム

テーマ「子どもの現場における臨床美術の新たな展開」

趣 旨

臨床美術の実践の中でも近年、実践者の増加が見られ、又関心を集めている分野が子どもに対する臨床美術である。本学会においても幾度かテーマとして掲げられ、研究発表においても子どもを対象とした報告も盛んである。次世代に向けた美術の力について期待の大きさが伺える。その背景には、昨今の子どもを取り巻く社会の動きとの関連を当然見いだすことができよう。児童虐待、子どもの貧困、又は子どもの学力と経済の関連や、子どもを取り巻く環境について示される諸説について、連日報道等で見かけない日がない程の状況である。そして、その中心に位置するものはやはり公的な幼児教育、保育である。待機児童の問題から始まり、保育の質にまで至るその課題は、今や国の行く末をも左右する懸案として認知されるようになってきた。

そうした中、子どもの現場にオルタナティブな立場として接近してきた臨床美術が、社会的使命を帯び、今取り組むべきことは何かを改めて考えてみたい。これまで積み上げてきた実践から得られた知見、つまり『実践知』を今一度整理し、これからの展望を描く機会としてこのシンポジウムを企画したい。

そこで今回は、限られた時間の中で議論を深めるために、一つの研究を題材とし、そこに関与する視点の異なる者からの話題提供によって多角的に問題を描き出したい。「子どもアートアプローチ」という名称を持ち、臨床美術と保育現場とが日常の造形表現活動を通して子どもに介入する多職種協働をテーマとした一連の研究活動である。そこでは、

- 臨床美術士一級である研究者と実践を担う臨床美術士とがプログラムを検討し
 - 日常の保育を展開する保育士と保育補助をしながら造形活動を行う臨床美術士との連携が図られ
 - 保育の質の向上に向き合う保育士と、保育者を養成する研究者との話し合いが持たれるなど
- それぞれの立場が機能的に働く事と同時に相互作用を働かせ、子どもにとっては勿論、お互いの向上を期待する仕組みづくりに取り組んでいる。新たな試みゆえの様々な課題も挙がるが、それ以上に臨床美術の可能性を再確認する事例も多数現れている。これらは臨床美術の新たな展開を考える上で共有するに値し、子どもの分野のみならず、各実践に示唆を与えるものと考えている。

シンポジスト 河合 規仁 氏 (東北文教大学 教授)

シンポジスト 寺澤 三奈子 氏 (社会福祉法人清香会 臨床美術士)

シンポジスト 青木 一則 氏 (東北福祉大学 准教授)

座長 和田 明人 氏 (東北福祉大学 教授)

分 科 会

【全体主旨】

今大会では、分科会形式を導入し、シンポジウムでの発題と議論をもとに、それぞれの分科会において、参加者間のディスカッションを深める企画としました。各分科会の趣旨に沿った話題提供のもと、アクティブラーニングを用いた参加者相互が主体的能動的対話と交流を深め、それぞれの経験知を集合知として、それぞれの問題を学会全体の課題と捉え抽出、検討していきます。

分科会の進め方について

- ① 3分科会のテーマ・趣旨のもと、**参加申込時に希望分科会を選択し**、各分科会に参加してください。
- ② 分科会前半は、分科会テーマに沿った話題提供と質疑応答を行います。
- ③ 分科会後半は、②から抽出されるアジェンダを座長が提示し、参加者による小グループのグループワークにより議論を深めていきます。
- ④ まとめとして各グループでの議論内容を各会場で共有し、更には閉会式時に各会場の座長がそれぞれの議論内容を報告し、全体共有します。

分科会の構成（3分科会）

本学会では、学会テーマに沿った以下のテーマを設けた3分科会とします。

情報共有型分科会 全体テーマ「臨床美術の新たな展開を考える」

第1分科会「多様化するフィールドへ向けたアートプログラムの構造化」

話題提供者 藤木 晃宏 氏（芸術造形研究所）
北澤 晃 氏（富山福祉短期大学 教授）
座長 河合 規仁 氏（東北文教大学 教授）

【趣旨】

認知症の改善を目的として始まった臨床美術ではあるが、近年の急速な社会の変化にも伴い、障がい児・者、発達が気になる子どもへのケアや社会人のメンタルヘルスケアなどにも活躍の場が広がっている。また、健常者における美術活動として、子どもから大人まで幅広い世代を対象に臨床美術が実践されるようになった。

だれにでも高度な技術を要せず、芸術性あふれた作品を生み出すことができることに定評があるアートプログラムであるが、多様化する現場、対象者に対する目的や適正については、現状の課題も挙げられよう。

臨床美術の実践現場では、どのような作品が生み出されようとも、臨床美術士の持つスキル（美術的スキル、ソーシャルスキル、カウンセリングマインド、コーチング等）によって、そこに現れた現象を肯定的に受けとめ、制作者自身の存在をも認め、参加者と共に充実した時間を過ごすことができる。これは、臨床美術以外ではなかなか見ることのできない貴重なものであり、アートプログラムと援助スキルの総合的な効果といえるが、アートプログラム自体の課題について省察すべき観点を曖昧にしてしまう要因ともなる。

アートプログラムには、対象の適正の症状や年齢は示されてはおらず、実践者の判断でアートプログラムを選択し、アートプログラムの内容、進行は踏襲しながらも、実践者がアートプログラムの本質的特性を十分に理解し、表現アプローチを対象者に合わせ実施していく力量が問われていく。

アートプログラムについて、種々行われているセッションの対象者に対して、それぞれどのような目的で実施され、どのような効果を期待しているのか、対象者の発達や状態において本当に適切であるのかという視点での臨床美術士の意識の共有が改めて必要なのではないだろうか。

本分科会では、アートプログラムの本質的特性や表現アプローチ等について整理し、多様化する現場や対象者それぞれに対するアートプログラムの目的の明確化やアートプログラムの構造化へ向けた課題と展望を検討したいと考える。

第2分科会「様々な現場との協働を紡ぐためのコンピテンシー」

話題提供者 丸本 真代 氏 (M's palette)
佐藤 敏美 氏 (デイケアうさぎ)
座長 保坂 遊 氏 (東京家政大学 准教授)

【趣旨】

臨床美術を取り巻く議論の中で、医師-臨床美術士-カウンセラーの協働から始まったその端緒を見ても、様々な現場での専門職者との協働が不可欠となる。臨床美術士が現場の協力を得て実践していくためにも、各専門職者との協働体制を有機的にどう創りあげていけばよいか、その方法や関係構築スキルなどの専門性が問われています。

昨今、様々な専門領域で社会資源の効果的活用が問われており、医療福祉現場においては、「協働的能力としての多職種連携コンピテンシー」として、① [Common] 共通的能力、② [Complementary] 個々の専門能力の相互補助、③ [Collaborative] 協働的能力が重要視され、多職種協働を目的とした人材育成や教育プログラムも開発されています。

このような現状の中、多様化する臨床美術現場でどのように各々の領域の専門職者と「多職種協働」を図り、それぞれの対象者の「病状改善」、「QOL 向上」、「成長の伸長」等々へ貢献することができるかについて検証することが、今後の臨床美術の円熟化に向かう新たな示唆となり得るのではないかと考えます。

そこで、本分科会では、「多職種協働」のキーワードの基、様々な現場で専門職者と関わりながら、共に協働、連携している実践事例を話題提供として、参加者の方々の現状と照らし合わせながら、①多職種協働が臨床美術にもたらすものとは何か。②協働のための具体的な方法論や実践をどう構成していけば良いか。③多角的な視点、多様な価値観によって、実践する上でのコアエッセンスを共有することはできるか。④更には臨床美術における多職種連携コンピテンシーとはなにか、各々の問題解決へ向けた課題を抽出していきたいと思えます。

臨床美術の質の担保と向上といった現状課題に対しても、対象者の最善の利益を保障する場となるためにも、「多職種協働」が日々の臨床美術実践に新たな刺激を与えるアフォーダンスであると共に、これからの臨床美術の在り方をイメージしていくためのリフレーミングの機会となると考えられます。その具体的実践化に向けての組織的な検討として、本分科会ではその一示唆を得ることができるよう議論を深めていければと考えます。

第3分科会 「現場に求められる臨床美術の効果とアセスメント」

話題提供者 高橋 文子 氏 (芸術造形研究所)
音山 若穂 氏 (群馬大学 教授)
座長 青木 一則 氏 (東北福祉大学 准教授)

【趣旨】

臨床美術創生時から命題としてあがっていたのは、その効果と測定方法である。認知症の症状改善を目指すに当たって、医師や専門家の協力を仰ぎ各種の評価スケールを用い検証を行い、また独自に対象者の記録を取り続け検討を繰り返してきた。その成果については、東北福祉大学感性福祉研究所における一連の研究活動を中心として、産学官連携事業での研究や各自治体における介護予防事業への参入等で臨床美術の介入前後の結果を報告してきた。他の芸術療法とは違った独特なアプローチ自体も珍しかった当時、さらにこうした地道な検証を誠実に行う姿勢は一部専門家から高く評価された。しかし、こうした効果測定を行う事は決して容易なことではなく、対人援助における実践者としての倫理を伴うジレンマは、成果をあげる目的性、その配慮を要する環境の構成と、芸術表現という多様な答えを期待し、様々に解釈することが可能な活動との間で常に湧き起こっている。一方、社会状況の変化に伴い、福祉や教育実践において科学的根拠を求める風潮はますます強くなり、様々な評価法も開発されてきている。又、その考えについてもいわゆる量的なデータを取り扱う方法に対して、質的なデータを丁寧に扱う方法も確立され、本学会においても「ナラティブアプローチ」が取りあげられたのも記憶に新しい。

こうした多様な価値観が入り混じる状況の中で、本分科会においてはこれまで取り組んできた評価とその成果を改めて俯瞰的に振り返ることから始め、最新の臨床美術実践の紹介と教育心理学の視点からの見解を合わせるにより本質的な議論が展開されるよう構成したい。社会に貢献するための確固たる指標と、臨床美術ならではの芸術活動を介してのアセスメントを再確認する場となることを期待する。

研究発表（ポスターセッション形式）

研究発表 座長 大城 泰造 氏（東北福祉大学 准教授）

臨床美術学会設立以来、年々学会員や大会参加者も増加し、研究や実践フィールドも多岐に亘っています。そこで、本大会ではポスターセッションによる研究発表を導入することとし、より多くの学会員、参加者の発表の場、共有の学びの場としたいと考えています。

●ポスターセッションとは

ポスターセッションとは、発表内容をポスター形式にまとめ、展示・発表するものです。各学会でも研究発表に採用する学会も増えてきています。ポスターセッションには、以下のような利点があります。

- （１）展示期間中、参加者は自由にポスターを見ることができる。
- （２）参加者は、個々の関心に合わせて発表を自由に見て回ることができる。
- （３）ポスターを前に、発表者とギャラリーという少人数で直接、質疑応答ができる。

1. 発表資格要件

発表代表者は、原則として以下のいずれかに該当する者とします。

- ①臨床美術学会会員
- ②日本臨床美術協会会員
- ③その他、臨床美術実践現場職員等

* ②、③の方が発表代表者となる場合は、必ず本学会会員が連名発表者で加わることが条件となります。

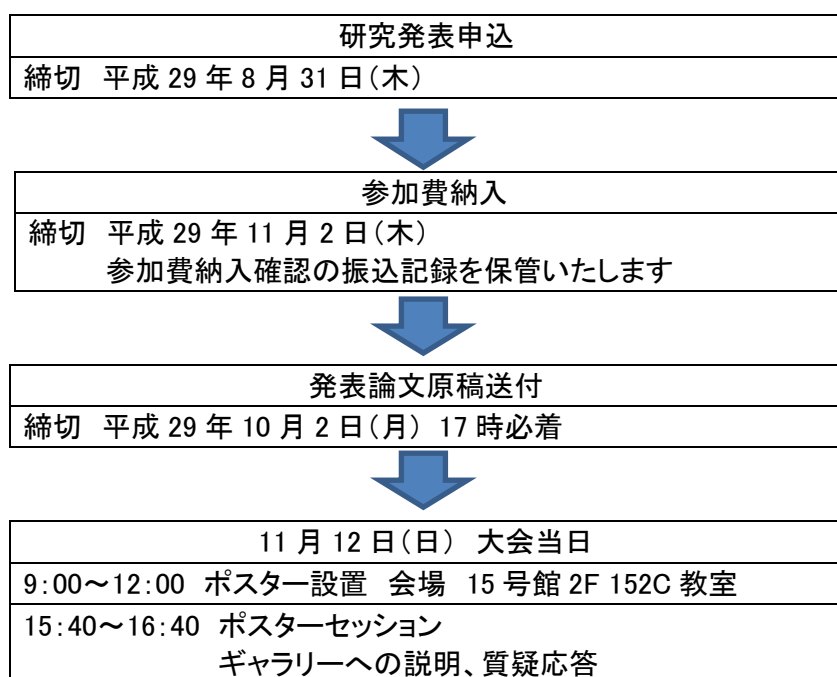
2. 発表に関する制限

発表代表者とある場合、1人1発表に限ります。

連名発表者となる場合は、複数の発表でも構いません。

発表する研究は未発表のものに限ります。

3. 発表申込から研究発表（ポスターセッション）までの流れ



4. 発表申込とその受理

研究発表で発表する代表者は、指定された期日までに「大会参加申込」「研究発表申込」「参加費の納入」を行なってください。上記のいずれかに遅れや不備等があった場合、発表申込が受理されないことがあります。

| | | |
|----------|----|----------------------|
| 「研究発表申込」 | 締切 | 平成 29 年 8 月 31 日 (木) |
| 「参加費の納入」 | 締切 | 平成 29 年 11 月 2 日 (木) |

5. 研究発表論文原稿の提出

発表代表者は、指定された期日までに研究発表論文集の原稿を提出してください。

原稿の作成及び送付方法については、「**研究発表論文集原稿作成／送付要領**」に従ってください。

| | |
|-----------------|--|
| 「研究発表論文集原稿受付」期間 | 平成 29 年 9 月 1 日 (金) ~10 月 2 日 (月) 17 時必着 |
|-----------------|--|

6. 発表方法

①研究大会当日、発表代表者は、指定時間までに受付をお済ませください。

②受付を済ませた後、指定された時間(9:00~12:00)までに大会スタッフの指示に従って、指定されたパネルへポスターを掲示してください。

③発表代表者は、指定された時間(15:40~16:40 の1時間)に、自分のポスター掲示場所に必ず待機し、参加者の質問に答えながら自由に討議をすすめてください。

④原則として、連名発表者全員も指定された時間に待機し、討議に参加するようにしてください。

⑤終了しましたら、発表者は速やかにポスターを撤去してください。

7. ポスター作成について

ポスターの大きさについては、縦 1800mm×900mm 以内の範囲内であれば、自由な形で使用を可とします。

掲示スペースに収まる程度の大きさであれば、文章・グラフ・写真・絵などを使用して自由にレイアウトを行えます。ただし、パネルの下部まで最大限に使用すると、発表時などに閲覧しにくくなることを考慮してください。なお、会場には、ポスター掲示に必要な画鋸を用意いたしますが、予備の模造紙等は用意しておりません。(ポスターの作成については、「**ポスター作成要領**」に従ってください。)

「研究発表論文集原稿作成／送付要領」

研究発表論文原稿は、WORD 等の文書作成ソフトで作成(A4 モノクロ 1 枚に印刷されることを想定して作成)し、学会事務局アドレス(clinicalart@asas-mail.jp)までお送りください。ご希望の方には、基本レイアウトに沿ったフォーマットデータをお送りします。ポスター発表要旨集原稿を送信する際には、WORD および PDF ファイル形式で作成しお送りください。WORD ファイル形式のみの送付では登録できませんので注意してください。 要旨集は、送信された PDF ファイルをそのまま使用して作成します。要旨集原稿ファイルを送信する前に必ず印刷をおこない、文字化けや文字つぶれ等がないことをご確認ください。なお、登録した要旨集原稿を修正(差し替えを含む)することは一切できませんので、ご注意ください。 要旨集原稿全般に関してご不明な点があれば、学会事務局アドレス(clinicalart@asas-mail.jp)までご連絡下さい。

(1) 用紙

- ・ 1 題の研究発表につき、A4 サイズ 1 ページとする。
- ・ 横書きとして、背景は無地とする。
- ・ 上下左右各 20mm の余白をとる。

(2) 原稿の作成

- ・ ページ上部に、発表タイトル(副題)・発表者氏名(所属)を大きく示す。
- ・ 発表タイトルと発表者氏名(所属)の下からは 2 段組で本文を書く。
- ・ 図表は本文内に掲載し、図表が要旨集原稿の 40%以下になるようにする。

(3) 「発表タイトル・発表者氏名(所属)」について

A. 発表タイトル

- ・ ゴシック系フォント・中央揃え・要旨集原稿の中で、最も大きいフォントサイズ(12~14pt)とする。
- ・ 発表申込み時の研究発表タイトル(発表タイトルにはサブタイトルも含む)を記載する。
- ・ サブタイトルは原則として改行して記載しフォントサイズは発表タイトルのサイズより小さくする。

B. 発表者氏名(所属)

- ・ 明朝系フォント・中央揃え・フォントサイズ(12pt)とする。
- ・ 連名発表者 がある場合、筆頭発表者の氏名の前に○印をつける。
- ・ 所属は氏名に続けてカッコ内に記載する。

(4) 本文について

- ・ 発表タイトル・発表者氏名(所属)下を 1 行あけ 2 段組で作成する。段組の間隔は約 2 文字分あける。
- ・ 明朝系フォント・左揃え・フォントサイズ(10~10.5pt)とする。
- ・ 見出しをゴシックや太字にするなどして読みやすくする。

(5) 図表について

- ・ 図表にはタイトルをつける。複数の場合は通し番号をつける。
- ・ 本文中の図表数に制限はない。ただし要旨集原稿に占める図表の面積は 40%以下とする。
- ・ 印刷した際に見やすいものとする。

(6) 書式

- ・ 書式については作成要領を守っていることを前提として、細部については発表者の判断に任せる。ただし、読みやすさを最優先して作成すること。

(7) その他

・要旨集原稿は所属先の研究倫理規定・倫理指針等に従い作成すること。

特に次の3点には注意すること。

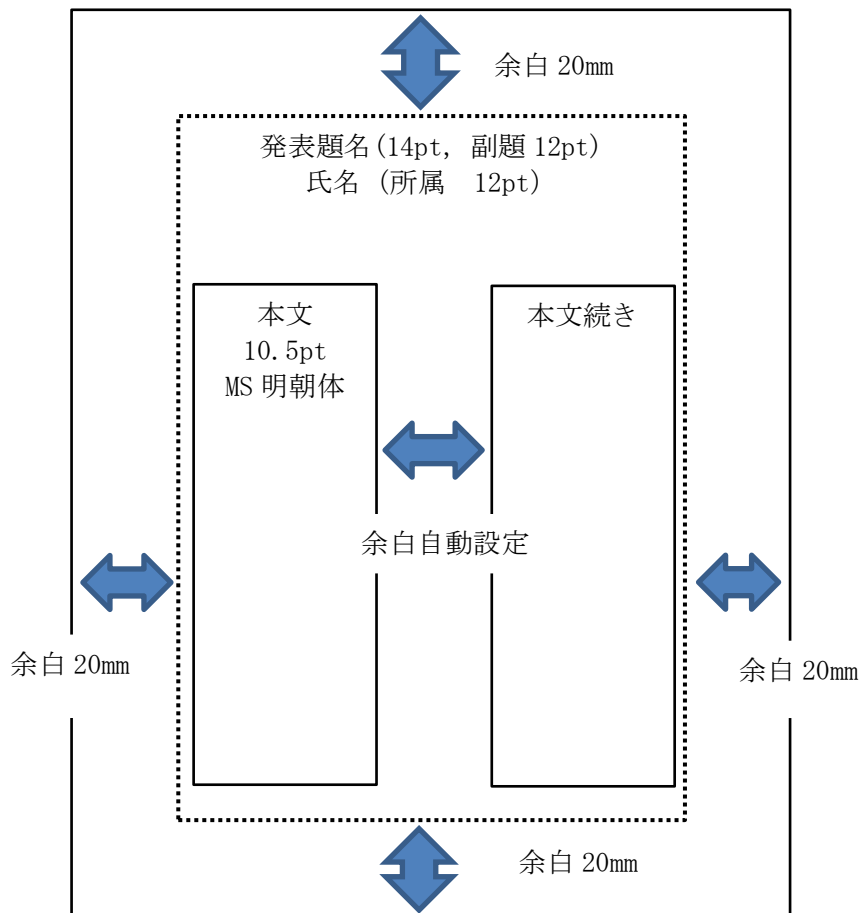
- 1 研究協力者がいる場合、事前に発表の承諾を取ること。
- 2 研究協力者の人権に十分配慮していること。
- 3 他の研究者などの文献から引用がある場合は出典を明記すること。

・原稿作成時、特に写真を用いる等の場合は、個人情報やプライバシーの保護に努め、予め発表について対象者の了承を得るか、個人が特定できないように表現には十分留意すること。

原稿作成レイアウト

下記の図に従って作成してください。規定外原稿は受理できませんのでご了承ください。また、送付された原稿はそのまま印刷しますので、一度提出された原稿の修正、取り下げ及び返却はできませんので、提出の際は十分ご注意ください。

原稿作成レイアウト【図】 A4 1 ページ



「ポスター作成要領」

研究発表（ポスターセッション）は、研究発表論文の要旨に沿った内容とし、発表者は当日掲示するポスターについて以下を参考に作成してください。

1. サイズ縦 1800mm×横 900mm 以内
2. タイトルは太く、大きな文字で記載。必ず発表者名（所属）を記載。共同研究など連名発表者がいる場合は、筆頭発表者氏名の前に○印を付ける。
3. 文字、フォントは見やすいものであればよく、発表者の自由とするが、1文字は1センチ以上の大きさを推奨する。色を付ける、強調する、太字などを活用し視覚的効果を図る。
4. レイアウト、文字、図表の工夫した配置を意識する。
5. 簡潔に表現する。（限られたスペース内におさめ、発表者がいなくても見ればわかるように）

ポスター作成例

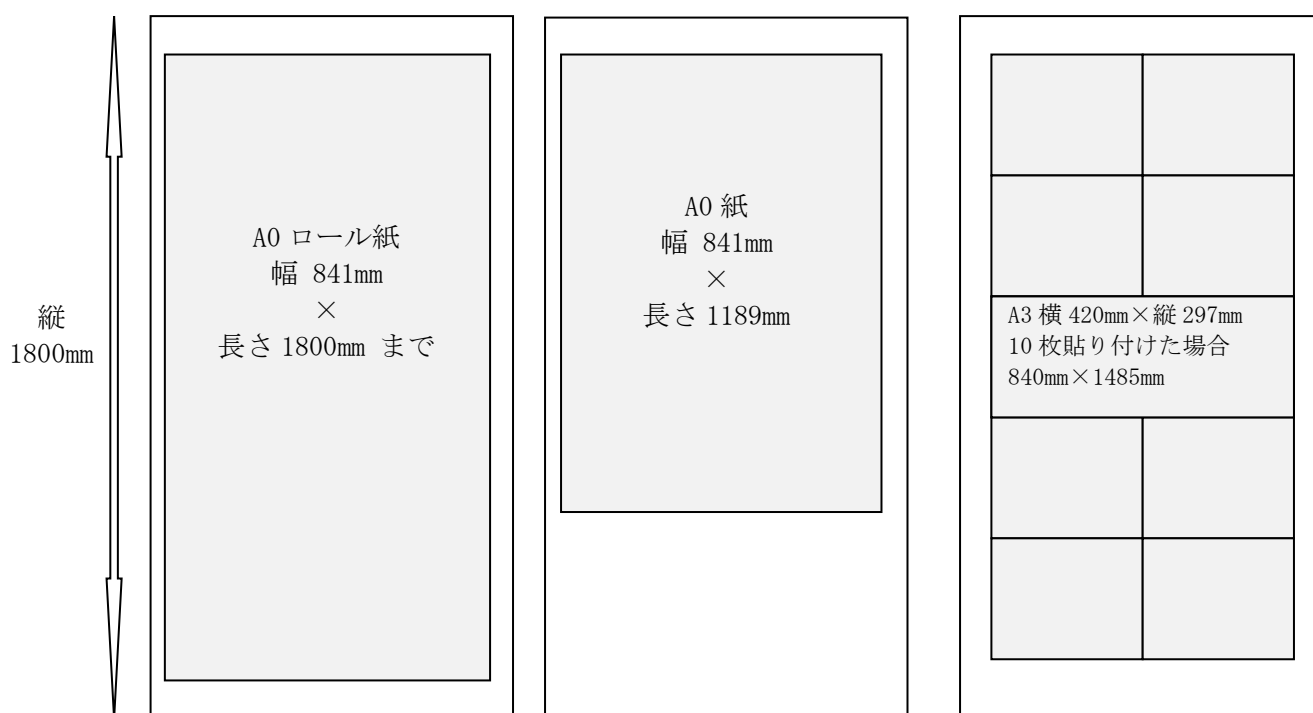
大判印刷
A0 ロール紙に印刷

大判印刷
(A0 紙に印刷)

A3 用紙に印刷

ポスター貼り付け可能サイズ

横 900mm



臨床美術学会第9回大会参加申し込みのご案内

大会参加申し込み方法

(1) 大会参加費

| 申込区分 | 事前登録 | 当日登録 |
|------|----------|----------|
| 会 員 | 8,000 円 | 10,000 円 |
| 非会員 | 10,000 円 | 12,000 円 |

(2) 懇親会参加費（会員・非会員共通）： 5,000 円

(3) 研究発表申込（発表資料製作費として）： 2,000 円

(4) お申し込み方法

事前参加登録はオンラインで受付いたします。臨床美術学会ホームページ「[学術大会・イベント情報](#)」ページ内参加登録ページにアクセスし、登録画面の必要事項をご記入の上、登録してください。ご登録いただきましたE-mail アドレスにメールが届きます。メールの到着をご確認の上、未着の際は事務局までお問い合わせください。

事前参加申込締切：平成 29 年 10 月 27 日（金）

(5) お支払方法

お支払方法はゆうちょの口座へのお振り込みとなります。

参加登録申込後、ご登録いただきましたE-mail アドレスに参加登録受付メールが届きます。お支払内容・振込先等をご案内しておりますので、ご確認ください。

なお、お支払締め切り日までにお支払いがない場合は、事前参加・懇親会参加登録は取り消しになります。

各種参加費入金締切：平成 29 年 11 月 2 日（木）

(6) 参加申し込み内容の変更・キャンセルについて

参加登録費・懇親会参加費・研究発表資料製作費は返金いたしませんので、予めご了承くださいませようお願いいたします。

また、事前参加登録申込後、お支払締め切り日までにお支払いがない場合は当日参加の区分になりますので、予めご了承くださいませようお願いいたします。

※日本臨床美術協会のみにご所属の場合は、非会員の申込区分になります。参加申し込みの際、臨床美術学会の会員登録の有無を今一度ご確認ください。

研究発表（ポスター）申し込み方法

(1)お申し込み方法

研究発表申込はオンラインでの大会参加申込時にご選択して頂く形で受付いたします。登録画面の参加オプション「研究発表演題要旨」をご記入の上、登録してください。ご登録いただきました E-mail アドレスにメールが届きます。メールの到着をご確認の上、未着の場合は事務局までお問い合わせください。

研究発表申込締切：平成 29 年 8 月 31 日（木）

(2)発表受理確認

登録の際にご入力頂いた筆頭著者の E-mail アドレスに発表受理のメールが届きます。発表受理の E-mail が未着の際は事務局までお問い合わせください。

(3)発表論文原稿送付

発表論文原稿は下記 E-mail アドレスに WORD および PDF 形式のファイルを添付しお送りください。抄録に関しては、誤字・脱字・変換ミスを含め、原則として事務局では校正・訂正を行いません。そのまま印刷されますので、送信者の責任において確認してください。

また、受付締切り後の原稿の変更は一切できません。重要事項の記載漏れのないよう、十分ご確認ください。

作成時の詳細につきましては前項「研究発表論文集原稿作成／送付要領」をご高覧下さい。

受付 E-mail アドレス：clinicalart@asas-mail.jp

研究発表論文集原稿受付期間：平成 29 年 9 月 1 日（金）～平成 29 年 10 月 2 日（月）

お問い合わせ先

臨床美術学会事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル 4F

一般社団法人 学会支援機構内

Tel: 03-5981-6011 Fax: 03-5981-6012

E-mail: clinicalart@asas-mail.jp

URL: <http://www.clinicalart.gr.jp/>